

前半 “ことわざ” でめぐる世界

スペイン語のことわざ、 『ドン・キホーテ』のことわざ

講師：パロマ・トレナド 准教授（スペイン語スペイン文学科）


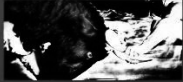
フアン・カルロス・モヤノ 専任講師（言語教育研究所/スペイン語スペイン文学科）



司会：齋藤 華子 准教授（スペイン語スペイン文学科）










スペイン語のことわざ、 『ドン・キホーテ』のことわざ

パロマ・トレナド准教授 | スペイン語スペイン文学科
ファン・カルロス・モヤノ専任講師 | スペイン語スペイン文学科

1. 	2. <p>はじめに</p> <p>※今日は、スペイン語のことわざの特徴について、実際にことわざをご紹介しますながら、説明していきたいと思っています。</p>
3. <p>※どの言語にも多くのことわざがあるはずですが、それぞれが持つ文化や、受け継がれてきた伝統から、その社会ならではのことが生まれてきたと言えるでしょう。人はことわざを通して、その社会の一員であることを意識することにもなります。</p>	4. <p>ことわざの種類</p> <p>※ことわざは次の2つに分類できるでしょう。 1つは人類皆に共通する真理を表現するもの、もう1つはその土地に根付いた風習に関するものです。同じテーマであっても、その表現方法は、それぞれの社会によって異なることもあります。スペイン語の例を見てみましょう。</p>
5. <p>※皆さんは「困難に立ち向かう」ことを表現したいとき、どのような言い方をしますか？</p>	6. <p>スペイン語では、闘牛の世界から生まれた次のようなことわざがあります。</p> <p>“Coger el toro por los cuernos” 「牛の角をつかむ」 (正面から困難に立ち向かう)</p> 

<p>7.</p> <p>⌘ 仲が悪い動物、といえは？</p> <p>スペイン語では...</p> <p>“Llevarse como el perro y el gato” 「犬と猫のような関係」 (犬猿の仲)</p> 	<p>8.</p> <p>⌘ スペインは乾燥した土地柄なので、雨や雪の出る気候についてのことわざがたくさんあります。</p> <p>“En abril, aguas mil” 「4月は雨の月」</p> <p>“Año de nieves, año de bienes” 「雪の多い年は豊作」</p>
<p>9.</p> <p>⌘ 皆さんの文化では、大事な食べ物といえは何でしょう？</p> <p>スペイン語では...</p> <p>“Con pan y vino se anda el camino” 「パンとワインがあれば 歩くことができる」 (腹が減っては戦ができぬ)</p>	<p>10.</p> <p>スペイン語のことわざの特徴</p> <p>スペイン語のことわざにもっと親しんでいただくために、その特徴について説明します。</p>
<p>11.</p> <p>まずことわざの構成ですが、その多くは前半に事実や時間、後半に教訓や結論が韻を踏みながら表現されます。</p> <p>“A quién madruga, Dios le ayuda” 「早起きをする人を 神は助ける」 (早起きは三文の得)</p>	<p>12.</p> <p>● ことわざが人々の記憶に残り、古くから形を変えずに伝わってきたのは簡潔な言い回しや繰り返しの表現、また押韻といった、音の特徴によるとも言えるでしょう。</p>  <p>“Al pan, pan y al vino, vino” 「パンにはパンと、ワインにはワインと」 (歯に衣着せぬ言い方をする)</p>
<p>13.</p> <p>● 昔から使われてきたことわざは経験と関連づけて、道徳観や社会的な行動規範を私たちに教えてくれます。</p> <p>“Haz bien y no mires a quién” 「善行をおこなうのに 相手を選んではならない」</p>	<p>14.</p> <p>スペイン語のことわざの歴史</p> <p>⌘ スペイン語のことわざは、16世紀にはすでに存在していたといえます。北アフリカの表現に強く影響を受けており、当時の支配者層が自分たちに有利なように、民衆に考え方や行動を押し付け社会を統制していく、そのために、ことわざを利用していたとも言えるでしょう。</p>

<p>15.</p> <p>※ スペイン人が海を越えてからは、スペイン語圏諸国にもことわざが伝わっていきます。その国独自のものもありますが、約8割はスペイン起源のことわざです。国による差異があるとすれば、その国の歴史、民族、地理、動物、食等の違いによるものです。</p>	<p>16.</p> <p style="text-align: center;">現在</p> <p>※ 今日では、ことわざは以前ほど使われなくなったかもしれませんが、母語を使いこなすためにも、ことわざの知識は不可欠でしょう。スペイン語母語話者は 255、スペイン語学習者であれば 77 のことわざを覚えておくべきだとも言われます。</p>
<p>17.</p> <p>※ 社会の変化にともない、あることわざが使われなくなるということもあります。例えば、 “la letra con sangre entra” 「血を流してこそ言葉は身に付く」 (学問に王道なし) という表現が体罰を想像させるように、偏見や女性蔑視が読み取れることわざはたとえ冗談としてでも、今では使われません。</p>	<p>18.</p> <p style="text-align: center;">スペインならではのテーマ — 迷信 —</p> <p>※ 不吉な日といえば “13日の金曜日” でしょうか。スペインでは... “13日の火曜日”です。 次のようなことわざもあります。 “En trece y martes ni te cases ni te embarques” 「13日の火曜日には結婚も 船に乗るのも避けるべき」</p> 
<p>19.</p> <p>※ 一方、数字の3はバランスのとれた完全な数とされ、多くのことわざに登場します。 “No hay dos sin tres” 「3のない2はない」 (二度あることは三度ある)</p> 	<p>20.</p> <p style="text-align: center;">— 闘牛 —</p> <p>※ スペインならではの表現といえば、闘牛に関連するものでしょう。人と牛の戦いは大変古くからある地中海文化で、知性と肉体的な力の対決の象徴です。</p>  
<p>21.</p> <p>※ 迷信や儀礼にあふれる闘牛には、衣装、ケープ、それらの配色、音楽等、目で見ても、耳で聞いても、強烈な印象を残すものがたくさんあり、そこからは多くの表現が生まれています。</p>  	<p>22.</p> <p>∇何かをするのにもう時間がない！ そのようなときにはこう言います。 “Le va a coger el toro” 「牛に追い詰められている」 (切羽詰まっている)</p>  <p>“Tiene mano izquierda” 「左手を持っている」という表現は、闘牛士がより自由に使える左手で牛を操ることから、難しい状況をうまく統率する、という意味になります。</p>

23.

—しゃべる・だまる—

⌘ スペイン人はよくしゃべり、自分の考えをはっきりと伝える、と言われます。大事な意見かどうか、というよりも、やりとりをすることそのものに価値を置くのです。

24.

⌘ 例えば次のような表現があります。

“Tres españoles, cuatro opiniones”

「3人のスペイン人、4つの意見」

個人主義という特徴や、意見をまとめる難しさを表しているともいえます。

25.

⌘ 反対に、上手に生きていくためには少し黙った方がよい、と教えてくれることわざもあります。

“En boca cerrada no entran moscas”

「閉じた口にハエは入らない」

(口は災いの元)

26.

スペインやスペイン語圏の文学は、ことわざの知恵を効果的に取り入れてきました。その例として、続いて『ドン・キホーテ』に出てくることわざを見てみましょう。



27.

“諺というものは昔の賢人たちの経験と観察から引き出された短い格言である”

(後篇 第67章)



28.



29.

La codicia rompe el saco.

Cada oveja con su pareja.

強欲は袋を突き破る



牛は牛づれ 馬は馬づれ

30.

『ドン・キホーテ』に登場する 1000 のことわざ

(José María Sibarrá, autor del *Repertorio General Español*)

『ドン・キホーテ』は聖書の次に多く翻訳された書物です。

サンチョ・パンサは絶えずことわざを口にしますが、それは著者セルバンテスが農民の文化を表現しようとした一つの手段なのです。

つまり、サンチョ・パンサのような貧しい従者にとって、ことわざは唯一の財産といえます。

31.

そればかりは神様に治していただくしかねえや、なにしろおいらは本一冊分より多くの謄を知ってるもんだから



サンチョ、話のなかに謄をやたらにごたごた交ぜるというお前の癖、あれもやめねばならぬぞ

32.

次に『ドン・キホーテ』に出てくる10のことわざを紹介します。
お配りしたプリントの絵や写真を見て、どんな意味のことわざか、想像してみてください。実際に『ドン・キホーテ』に出てくる一節もプリントに抜き出しておりますので、参考にしてください。

33.

では答え合わせをしましょう。
ことわざをグーグルで検索すると、何件ヒットするか、その検索結果数もご紹介します。

34.

No hay que mentar la sogá en casa del ahorcado



35.

No hay que mentar la sogá
触れてはならない 縄
en casa del ahorcado
家で 絞首刑囚

- ・後篇 第28章 (プリント5)
- ・「絞首刑囚の家で縄の話をしてはならない」
→ 人の嫌がる話をするな
- ・検索結果数：約 39,500 件

36.

Nunca segundas partes fueron buenas



37.

Nunca segundas partes fueron buenas
決して～ない 2番目の 部分 良い

- ・後篇 第4章 (プリント1)
- ・「後篇がよかったためしががない」
- ・→ 柳の下にいつもドジョウはいない
- ・検索結果数：約 630,000 件

38.

Tanto tienes, tanto vales



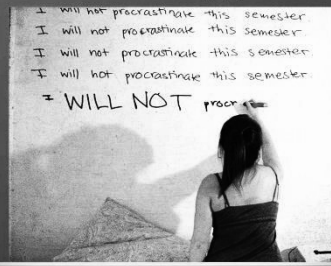
39.

Tanto tienes, tanto vales
持っている 価値がある

- 後篇 第20章 (プリント3)
- 「人の値打ちは財産次第」
- 検索結果数：約 723.000 件

40.

Del dicho al hecho hay gran trecho



41.

Del dicho al hecho hay gran trecho
言うこと すること 存在する 距離

- 後篇 第64章 (プリント7)
- 「言うことと実行することは大違い」
- → 言うは易く、行うは難し
- 検索結果数：約 792.000 件

42.

Cada oveja con su pareja



43.

Cada oveja con su pareja
それぞれの 羊 ペア

- 後篇 第19章 (プリント2)
- 「それぞれの羊にそれぞれの相手」
- → 牛は牛づれ馬は馬づれ
- → 類は友を呼ぶ
- 検索結果数：約 1.320.000 件

44.

No es oro todo lo que reluce



45.

No es oro todo lo que reluce
金 すべて 輝くもの

- 後篇 第33章 (プリント6)
- 「光るもの必ずしも金ならず」
- 検索結果数：約 1.810.000 件

46.

Quien bien te quiere, te hará llorar



47.

Quien bien te quiere, te hará llorar
 ~する人 君を 愛する 泣かせる

- ・後篇 第20章 (プリント4)
- ・「お前を愛している者ほどお前を泣かせるもの」
- 可愛い子には旅をさせよ
- ・検索結果数：約 2.500.000 件

48.

Hoy por ti y mañana por mí



49.

Hoy por ti y mañana por mí
 今日 君 明日 私

- ・後篇 第65章 (プリント8)
- ・「今日が君のものなら、明日は私のもの」
- お互い様
- 明日は我が身
- ・検索結果数：約 4.250.000 件

50.

Ojos que no ven, corazón que no siente



51.

Ojos que no ven, corazón que no siente
 目 見る 心 感じる

- ・後篇 第67章 (プリント10)
- ・「見なければ悩むこともない」
- 知らぬが仏
- ・検索結果数：約 10.100.000 件

52.

Donde las dan las toman



53.

Donde las dan las toman
 与える 受ける

- ・後篇 第65章 (プリント9)
- ・「やれば、やり返される」
- 勝ち負けは時の運
- 因果応報
- ・検索結果数：約 11.200.000 件

54.

最後に、あるテレビ番組の一部をお見せして終わりにしたいと思います。ことわざの前半を聞いて、後半が答えられる人が、どのくらいいると思いますか？ 今日ご紹介したことわざが、今でも広く知られていることがわかってと思います。

スペイン語のことわざ、『ドン・キホーテ』のことわざ

スペイン語スペイン文学科

パロマ・トレナド、フアン・カルロス・モヤノ

1. 「著者は後篇を約束しておりますかな？」

「ええ、約束しています」と、サンソンが答えた。「しかし作者は、・・・それを誰が持っているのかも分からないと言っているの、本当に後篇が目の目をみるのかどうか、いまだはっきりしたことは言えない状況です。かてて加えて、「後篇がよかったためしがない」と言う者がいるかと思えば、「ドン・キホーテの行状なら、これまでに書かれたもので十分だ」と言う者もいたりで・・・」

(後篇 第4章)

2. 「あいつときたら、《牛は牛づれ馬は馬づれ》の^{ことわざ}諺にならって、人はそれぞれ同じ身分の者どうして夫婦にならなきゃいけねえっていう考えだからね。」

(後篇 第19章)

3. 「人の値打ちは財産次第、財産があればあるほど値打ちがあるんだから。うちの祖母^{ぼあ}様がよく言ってたように、この世にはただ二つの家系しかねえ、つまり、金を持っているのと持たねえの二つだね。」

(後篇 第20章)

4. 「もう、それくらいで勘弁してくださいよ、旦那様」と、サンチョが応じた。「・・・いずれ、すべての振舞いの白黒が明らかになるわけだし、それに世間じゃ、《お前を愛している者ほどお前を泣かせるもの》って言いますから。おまけに、れっきとした旦那衆というものは、召使たちを口汚くののしったりすると、そのあとですぐにズボンの一本くらいはくださるって話だからね。」

(後篇 第20章)

5. 「お前はまた、なんと間の悪いときに驢馬の鳴きまねをしたのじゃ、サンチョ！首吊りのあった家で、綱のことを口にするのがよいか悪いか、それすらお前には分らんのか？」

(後篇 第28章)

6. 「・・・もし奥方様が、おいらがばかだから、島をくださるのがいやだとおっしゃるなら、おいらは利口な人間として、そんなことを気にしねえでみせませう。しかもおいらは、《十字架の背後に悪魔がひそむ》とも、《光るもの必ずしも金にあらず》とも人が言うのを聞いたことがあるし、・・・」

(後篇 第 33 章)

7. 「死を別にすれば、何ごとにも手だてはあるものよ」と、ドン・キホーテが答えた。・・・「お前様は気楽に、なんの造作もねえように言いなされるけど」と、サンチョが言った、「《言うはやすく行なうは難し》」ですからね。」

(後篇 第 64 章)

8. 「旦那様、そんな弱音をはいちゃいけねえよ」と、サンチョが言った。「・・・《今日がお前のものなら、明日は俺のもの》とも言うからね。それに、こうした合戦やぶん殴り合いの結果についちゃ、あんまり深刻に考えることあねえさ。だって、今日倒れた者が明日起きあがるってのはよくあることだからね。」

(後篇 第 65 章)

9. 「旦那様、・・・たしかに地べたに叩きつけられはしたものの、あばら骨一本折らずにすんだことを、神様に感謝しなくちゃ。お前様もよくご存じのように《勝ち負けは時の運》だし、・・・」

(後篇 第 65 章)

10. 「もしおいらが羊飼いになったら、・・・うちの娘のサンチーカが牧人小屋まで、わたしの弁当を届けてくれませう。だが、待てよ、やっぱりそりゃいけねえ！あいつは器量よしだし、羊飼いがみんなお人好しってわけでもなかろう。・・・《且が見えなきや心も悩まぬ》だし、なんといっても《君子危うきに近寄らず》ですよ。」

「サンチョよ、^{ことわざ}諺はもうたくさんだ」と、ドン・キホーテがひきとった。

(後篇 67 章)

セルバンテス (牛島信明訳) 『ドン・キホーテ後篇』岩波書店、2001 年